

日時：平成26年3月25日 14:00～

場所：阿賀野川河川事務所 2階会議室

第5回 阿賀野川自然再生検討会

議事次第

1 開 会

2 議 事

- ・第2回焼山地区ワンド再生懇談会結果について（報告）
- ・焼山地区ワンド再生の整備状況について（報告）
- ・焼山地区ワンド再生の今後の進め方について
- ・砂礫河原再生検討に関する中間報告について
- ・満願寺閘門の連続性確保の進め方について
- ・阿賀野川自然再生計画の今後の進め方について
- ・その他

3 閉 会

- ・検討会の閉会

■配布資料

議事次第

座席図

第4回阿賀野川自然再生検討会 議事要旨

資料1 説明資料

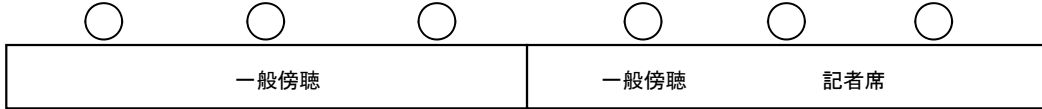
資料2 阿賀野川自然再生計画書（案）（H25.2） **H26.3 更新**

第5回 阿賀野川自然再生検討会 座席図

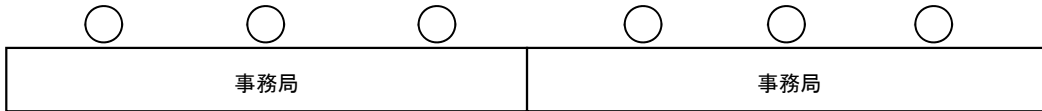
日時:平成26年3月25日(火) 14:00 ~

場所:阿賀野川河川事務所 2階会議室

窓



(株)建設環境



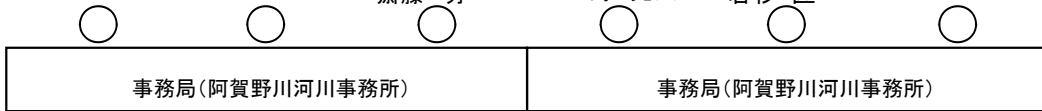
(株)建設環境

(株)建設環境

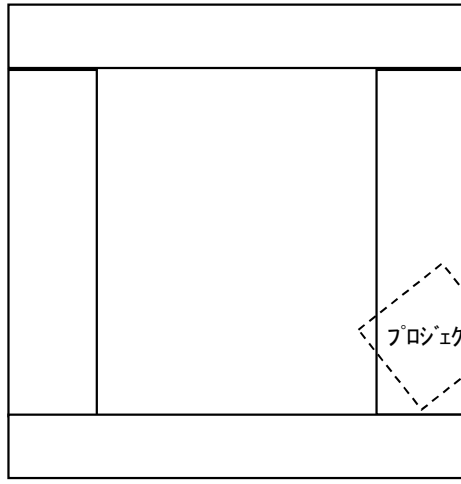
副所長(技術)
齋藤 明

事業対策官
日野 充人

調査課
水防企画係長
若杉 匠



NPO法人 五泉トゲンの会 新潟大学災害・復興科学
常任理事 研究所 准教授
中村 吉則 安田 浩保



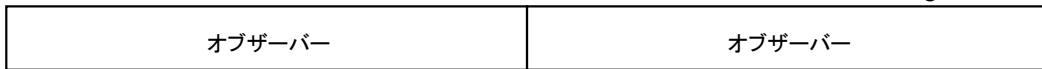
新潟大学農学部
教授
紙谷 智彦

阿賀野川河川事務所長
丸山 準

新潟大学
名誉教授
本間 義治

新潟県野鳥愛護会
顧問
本間 隆平

阿賀野川漁業協同組合
副組合長
藤田 正明



阿賀野市
建設課

新潟市
環境政策課

五泉市
都市整備課

出入口

スクリーン

窓

阿賀野川自然再生検討会（第4回）

議事要旨

【開催概要】

開催日時： 平成25年10月7日（月）13:30～16:25

開催場所： 阿賀野川きょうがせ防災ステーション

【議事次第】

1. 開会
2. 現地視察
 - ・ 焼山地区ワンド再生予定箇所
 - ・ 満願寺地区河道掘削箇所
3. 議事
 - ・ 第3回阿賀野川自然再生検討会 議事要旨
 - ・ 阿賀野川自然再生計画書（報告）
 - ・ 満願寺地区河道掘削モニタリング結果速報（報告）
 - ・ 第1回焼山地区ワンド再生懇談会結果（報告）
 - ・ 焼山地区ワンド再生の進め方について
 - ・ その他
4. 閉会

【審議内容】

事務局より、第3回阿賀野川自然再生検討会議事要旨、阿賀野川自然再生計画書（報告）、満願寺地区河道掘削モニタリング結果速報（報告）、第1回焼山地区ワンド再生懇談会結果（報告）、焼山地区ワンド再生の進め方について、説明を行った。議事の内容は以下の通り。

（1）阿賀野川自然再生計画書（案）（H25.2）について

- 1) 早出川はその名のとおり、流れの速い河川という特徴があり、かつては砂礫河床が多く、カマキリ、アユカケ、カジカ、アユ、サケ、カワヤツメ、スナヤツメなどが生息していた。緩流域の指標については、「ミクリ等、多様な生物群集」という表現でよいが、流れの速い場を指標する種も追加してはどうか。
→ 検討する。
- 2) 「早出川」は上流まで含む表現なので、「善願橋より下流の早出川」等にしてはどうか。
- 3) 自然再生は、工事完了で終わる事業ではない。試行・モニタリング・整備方法の見直し等の順応的管理を続けていくことが重要である。そのため、自然再生計画は（案）が付いた名称でよい。
- 4) 阿賀野川での「トミヨ」については、「淡水性のトミヨ」という表記としてはどうか。

（2）満願寺地区河道掘削モニタリング結果速報について

- 1) 「トウヨシノボリ」については、最近名称「クロダハゼ」に統一してはどうか。
- 2) 地盤高が高いため、もっと掘り込み、ワンドと本川が頻繁につながるような形状に修正する方がよい。その際は、池間をつなげ、下流側で本川とつながる形状とすること。

(3) 焼山地区ワンド再生の進め方について

●生態系

- 1) 昔は河原が広がり、日常生活に川を必要としたが、現在は樹林化が進み、日常生活では川を必要としなくなった。まずは人々に川の本来の姿を知ってもらうモデルとして、焼山地区のようなワンドを再生することに意義がある。
- 2) 今後、水が入ってきて、植生が安定してくる過程（何が平衡状態なのか）について議論する必要がある。水位変動を考慮し、将来の植生状態を予測することで、植生管理を軽減できるのではないか。
- 3) 魚類の観点からは、木陰が少ない。木陰があることにより、水面に虫が落下し、魚類の餌になる。7～8月頃に、ウグイやオイカワなどの稚魚がワンドで成育する際には木陰があった方がよい。
- 4) 焼山地区は中流から下流への移行点にあたる景観があり、冬になれば鳥も観察できる。床固や魚道もあり、要素に富んでいる。外来魚が移入しなければよいが。
- 5) イメージ図の水面幅 20m 程度の場所はヨシ原になってしまう可能性がある。昔のワンドはもっと単調だったため、複雑な縦断形状とせず、水面を広げた方がよい。自然の営力にまかせれば、植物の生育条件の良し悪しで自ずと縦断的な凹凸は形成されるだろう。

●地域との関わり

- 6) 国が子ども達を募集して行う観察会もよいが、地域が自主的に実施していくことが大事であり、事業の成否は地域住民との連携がカギになる。松浦川（九州）の「アザメの瀬」などを参考にしているかどうか。
- 7) 地域からの要望については、全てを受け入れるということではなく、生物多様性復元の趣旨を鑑みて検討する必要がある。
- 8) 生活様式が大きく変化し、復元が容易ではない現実がある中では、能動的に行動してもらえる場でないとなんか人は川に訪れない。地域住民に利用していただけるよう散策路や駐車場といったものもあってよい。
- 9) かつての川遊びや川と暮らしのつながり等の体験談を自然再生計画書にコラムとして、追記してはどうか。
- 10) 堤防が冬のスキーや夏の芝ソリ遊びができる斜面となれば、自然と子ども達が遊びに来るようになると思う。
- 11) ワンドが再生されれば、野鳥の観察会にも利用されるようになると思う。ただし、人が多く訪れる場合は、猟銃禁止区域の指定を検討する必要があるだろう。

(4) その他

- 1) かつて、阿賀野川周辺にも飛来していたが、環境変化等の影響で個体数が減少し、近年見られなくなっていたシジュウカラガンが、今年の冬に阿賀野川の小杉地先や赤塚地先、福島潟に飛来するようになった。近年、繁殖地の個体数が回復してきたので、生息域が南に拡大してきたと考えられる。

以上

【議事要旨に関する問い合わせ先】

阿賀野川自然再生検討会 事務局

阿賀野川河川事務所 事業対策官 日野 充人

TEL : 0250-23-4461

Mail : hino-m84tn@hrr.mlit.go.jp

阿賀野川自然再生計画

焼山地区ワンド再生懇談会
～ 第2回ニュース ～平成 25 年 11 月
国土交通省
北陸地方整備局
阿賀野川河川事務所

阿賀野川河川事務所では、阿賀野川の自然再生事業の一環として、焼山地区ワンド再生に取り組んでいます。11月5日に開催した第2回焼山地区ワンド再生懇談会では、9名の地域の方々にご参加いただきました。第2回懇談会ではワンド再生のイメージについて、ご確認いただくとともに、ワンドの利活用とその課題について貴重なご意見をいただきました。

今後、阿賀野川河川事務所では、焼山地区ワンド再生の工事に着手いたします。

■ 第2回焼山地区ワンド再生懇談会の開催概要

テーマ	焼山地区ワンド再生への関わりを考える
開催日時	平成 25 年 11 月 5 日 (火) 19:00~21:15
場所	阿賀野川きょうがせ防災ステーション
参加者	9名 (地域の皆様)
事務局等	12名 (事務局:阿賀野川河川事務所・コンサルタント、 関係者:新潟市・阿賀野市)



ワンド再生イメージへの意見交換

1. 焼山地区ワンド再生のイメージ確認

第1回懇談会において参加者の皆様からいただいたご意見をもとに、事務局が作成した焼山地区ワンド再生のイメージについて解説し、参加者の皆様にご確認をいただき、今後のワンド再生計画についてご了承をいただきました。

■ 池の名前のアイディア

- ・ 焼山池
- ・ 焼山ワンド
- ・ 阿賀の里池
- ・ シメキリの池



水際のイメージ



水際のイメージ



焼山地区ワンド再生イメージ

2. 地域による利活用のアイデア出し

地域の皆様に焼山地区のワンドに対する愛着を持っていただく最初のきっかけとなる記念イベントの実現に向けて、日常的な活用とイベント利活用についてアイデアを出していただきました。



1班のグループ作業風景



2班のグループ作業風景



中間発表

■地域による利活用のアイデア（一部抜粋）

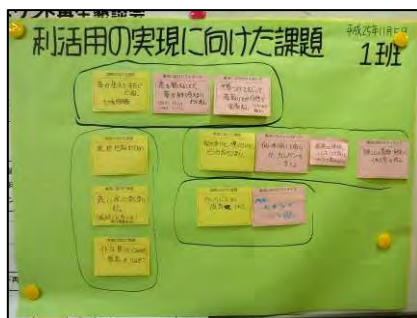
<p>【日常的な活用】 ★：優先順位高</p> <p>★子どもの川遊び（川魚釣り、ゴムボート遊び）の場所として利用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の農園として使えたら良い。 ・堤防などで彼岸花を植えると良い。 ・工業団地の方が昼休みに憩いの場や食事の場所として利用する。 ・冬季の際、スキーやそり遊び、カメラの撮影コンテストの開催などとして利用する。 	<p>【イベントとしての活用】 ★：優先順位高</p> <p>★地域行事イベントに合わせて、家族を連れて出掛けるなどとして利活用ができると良い。</p> <p>★魚（サケ・フナなど）を放流して子どもたちがつかみ取りする。（阿賀野川流域は11月8日にフナ稚魚放流）。</p> <p>★川辺の脇に花（コスモス等）を植える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供でボートレースをする。 ・川から流れてきた樹木を流木アートとして展示する。ストーンペインティングと合同開催すると良い。
---	--

3. 焼山地区ワンド再生に向けた課題への意見

焼山地区ワンドの利活用のアイデアを踏まえて、実際の利活用にあたって課題となること、及びその解決に向けたアイデアについて、ご意見をいただきました。



全体意見まとめ・発表



1班の意見をまとめたパネル



2班の意見をまとめたパネル

■焼山地区ワンド再生に向けた課題への意見（一部抜粋）

<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過に伴って雑草が生えてくると問題になる。 ・使用ルールを決めないと、何をどう使って良いのかわからない。 ・ブラックバスなど外来魚種が密放流される。 ・様々な団体との連携がないと、円滑な運営ができない。 ・猟銃の使用に気を付けないと、遊びに来る人に危険である。 ・堤防道路では車がスピードを出すため、横断する時、危険である。 	<p>【解決に向けたアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花を植えることによって雑草の繁殖を抑制する。 ・何に利用して良いか、看板を設置して掲示するとともに、焼山を管理・見守ってくれる会を創設する。 ・不法放流を防ぐために、監視カメラを設置する。 ・漁協、コミュニティ協議会、周辺小中学校等に協力を要請し、共同で運営する。 ・狩猟禁止地区にすることで、猟銃使用を禁止する。 ・堤防道路に信号を設置する。または、堤外地（河川敷）に駐車場を設置する。
--	---

第5回 阿賀野川自然再生検討会

説明資料



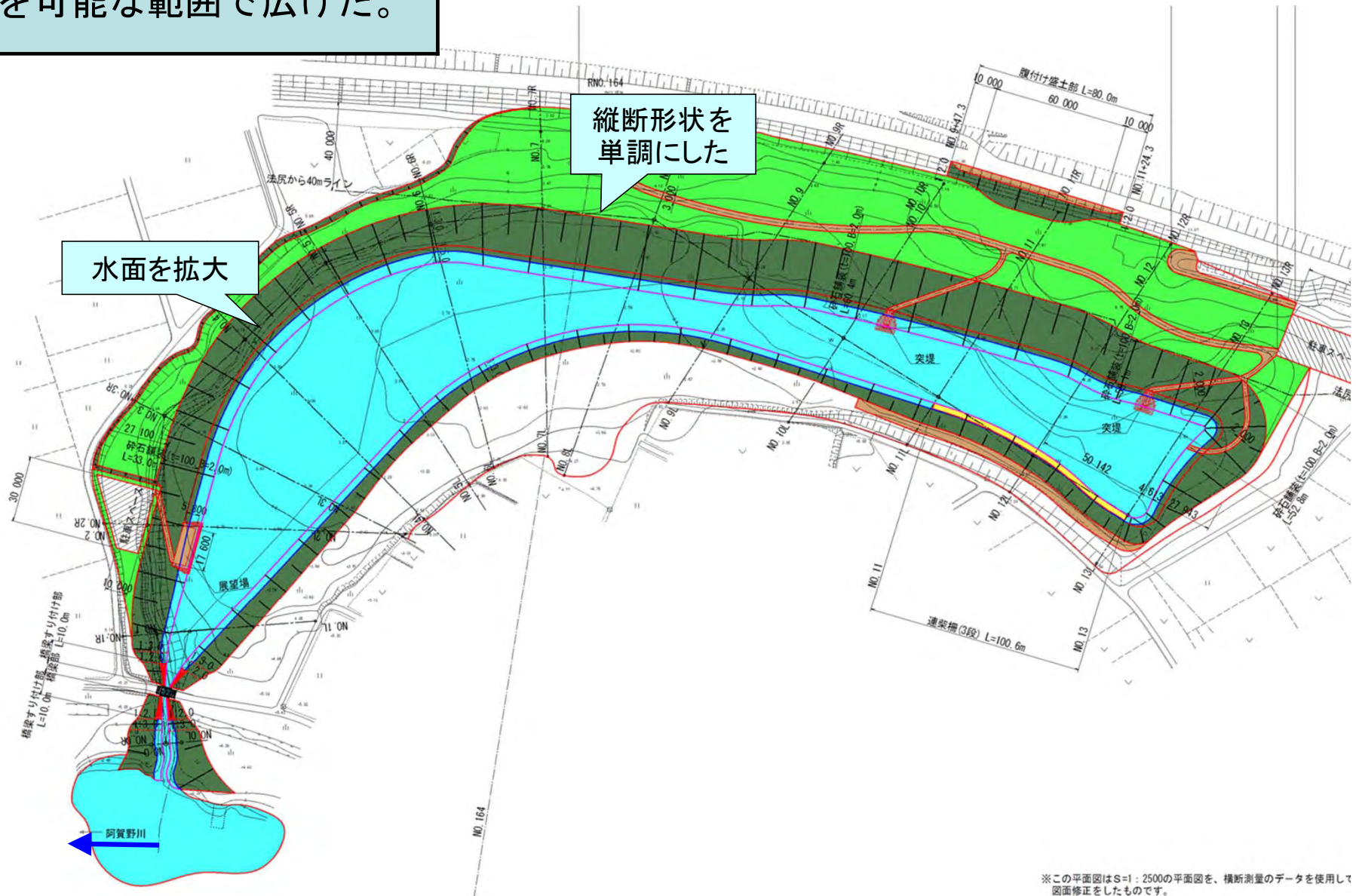
阿賀野川河川事務所

平成26年3月

修正事項

- 単調な縦断形状とした。
- 水面を可能な範囲で広げた。

修正概要図

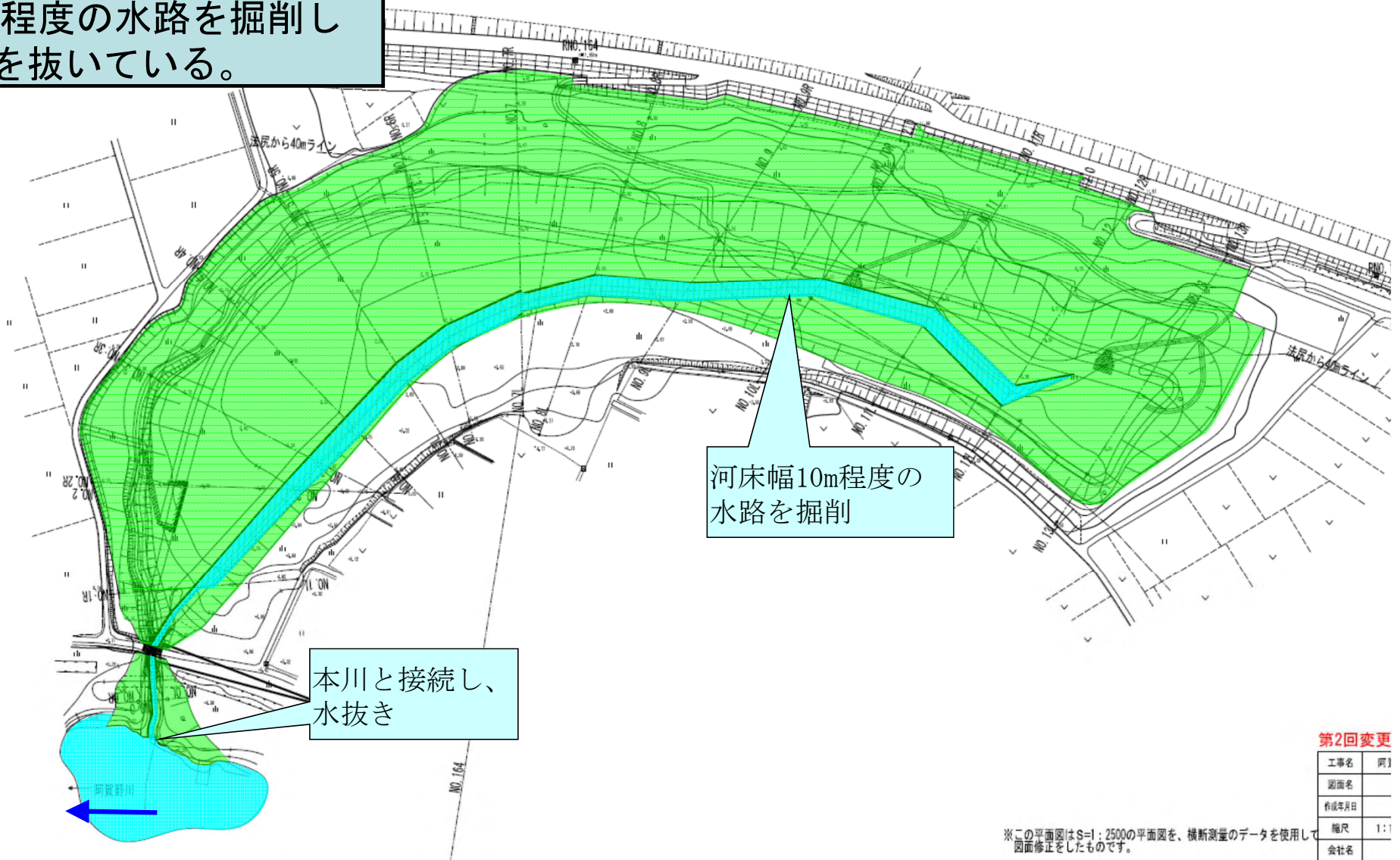


※この平面図はS=1:2500の平面図を、横断測量のデータを使用して図面修正をしたものです。

工事状況

- ・湧水量が非常に多く、かつ軟弱地盤のため、工事が難航している。
- ・幅10m程度の水路を掘削し、水を抜いている。

今年度の工事進捗状況



第2回変更

工事名	阿賀
図面名	
作成年月日	
縮尺	1:1
会社名	

※この平面図はS=1:2500の平面図を、横断測量のデータを使用して図面修正をしたものです。

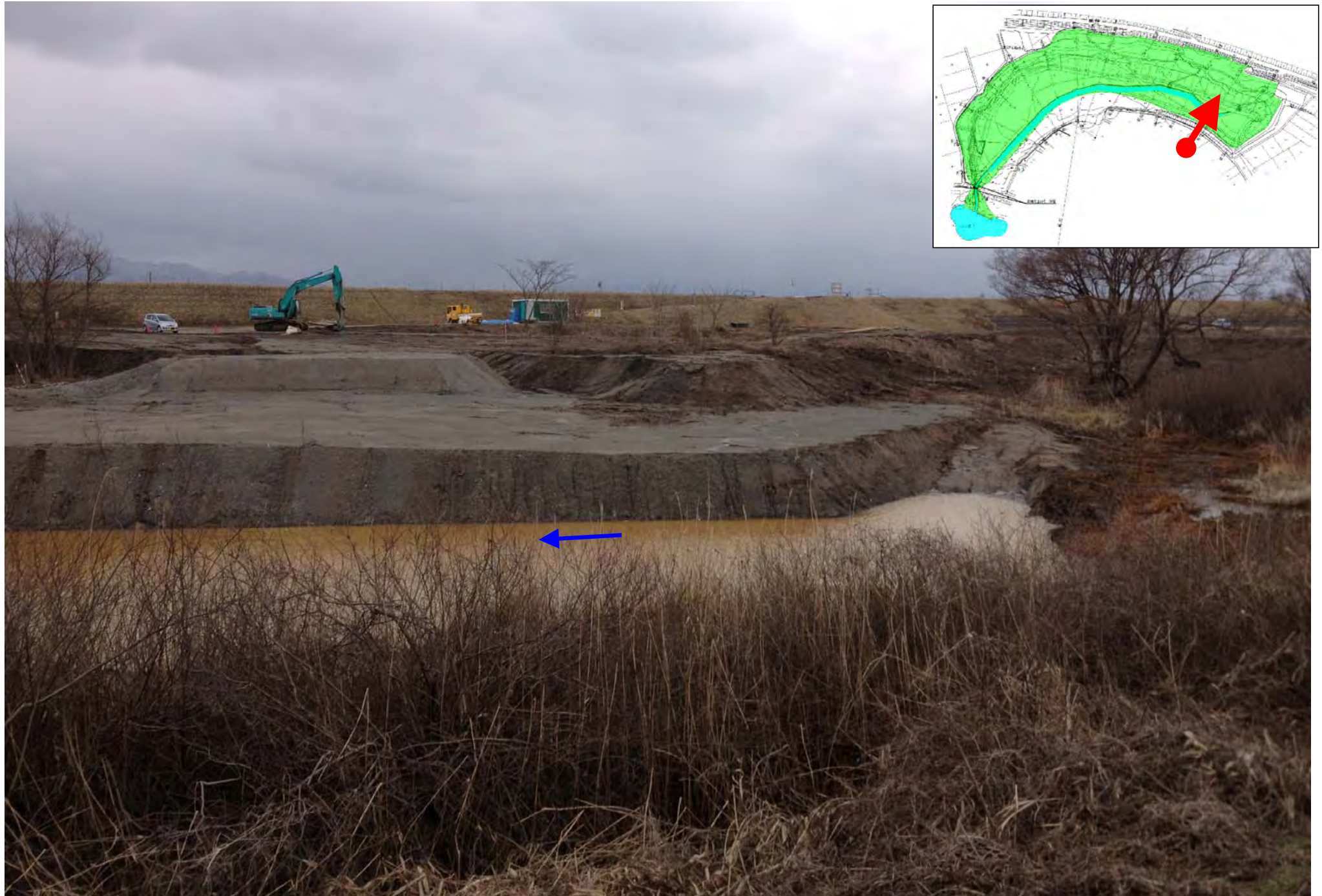
1. 2 現在の工事状況



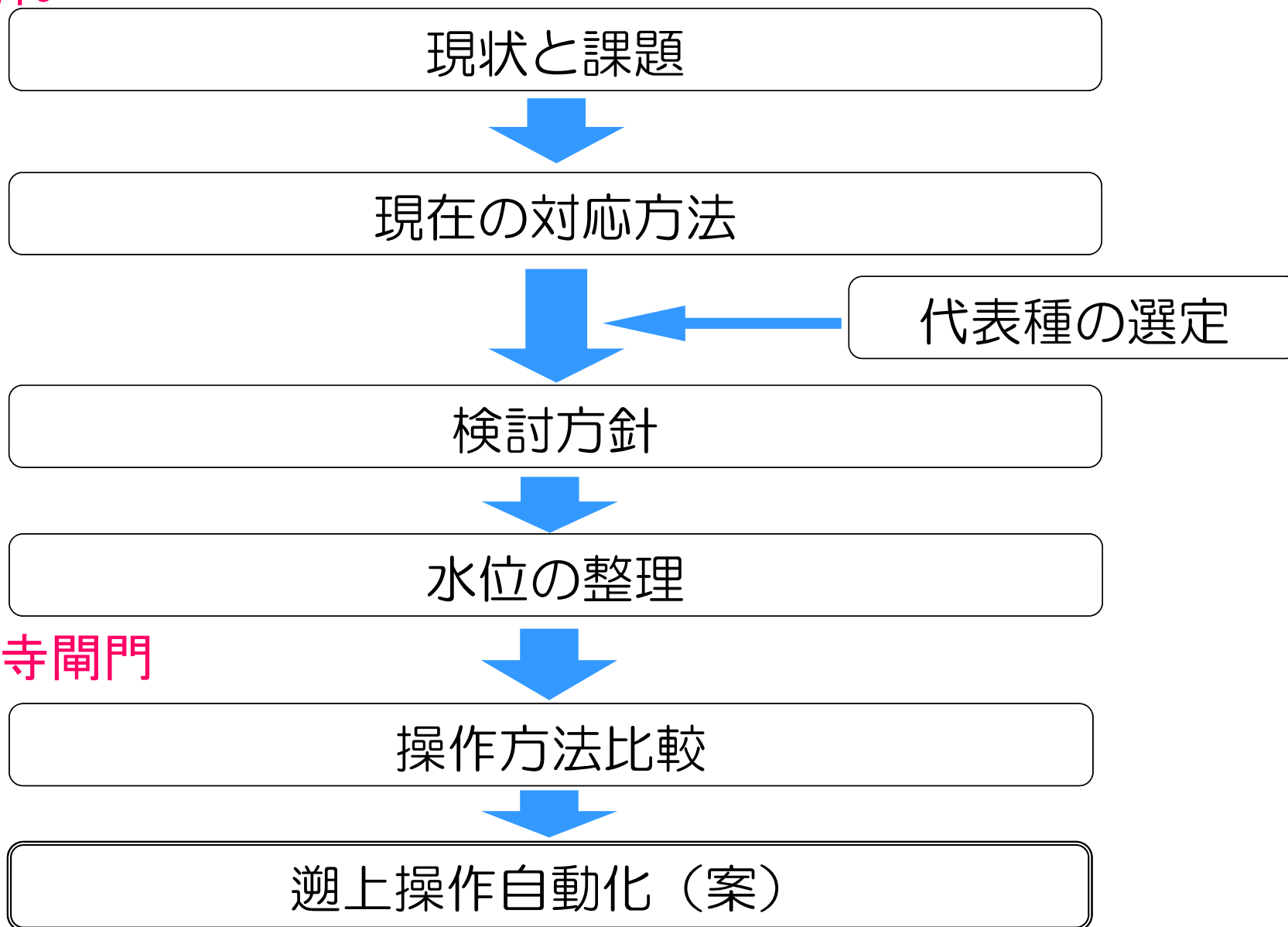
1. 2 現在の工事状況



1. 2 現在の工事状況

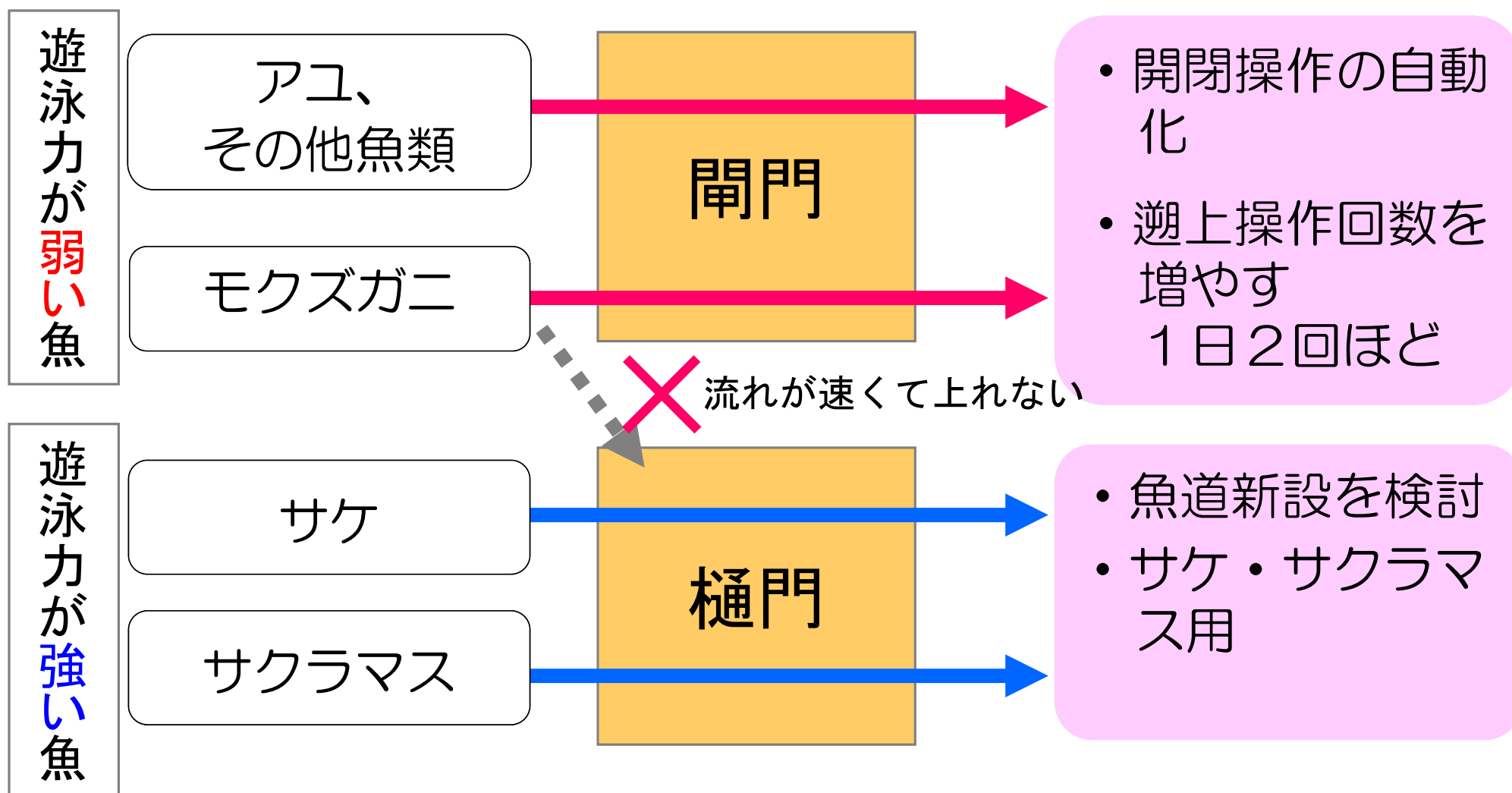


検討の流れ



満願寺閘門

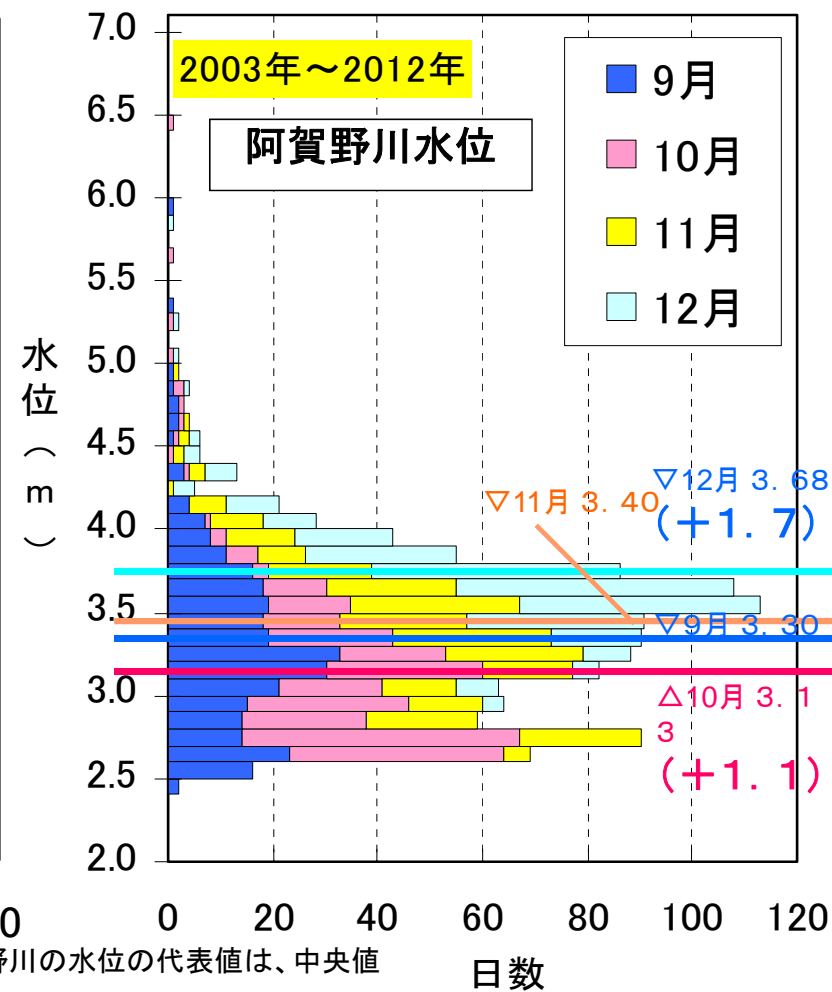
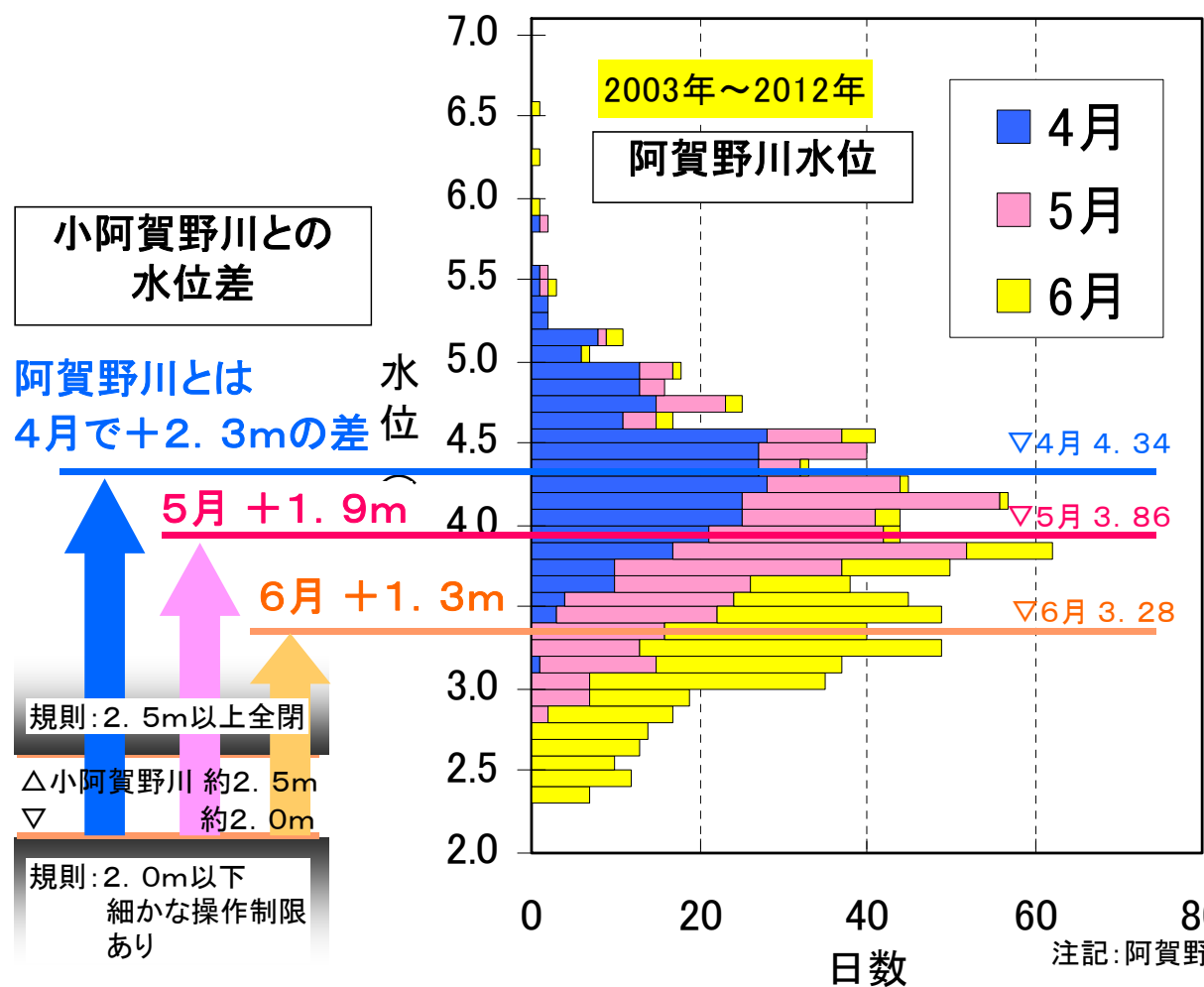
- ・ 樋門と閘門とで、役割を分ける。
- ・ 遊泳力の弱いアユ、モクズガニ、その他魚類は閘門を遡上させる。
- ・ 遊泳力の高いサケ、サクラマスは樋門魚道を設置して遡上させる。



- ・ 小阿賀野川の水位は、年間を通して、2.0～2.5mの範囲。この範囲を超えないように規則による流量調整がなされている。
- ・ 4～6月は、阿賀野川は小阿賀野川より、1.3～2.3m高い水位差がある。
- ・ 9～11月は、1.1～1.7m高い水位差がある。

【4～6月】アユ、サクラマス、モクズガニ遡上期

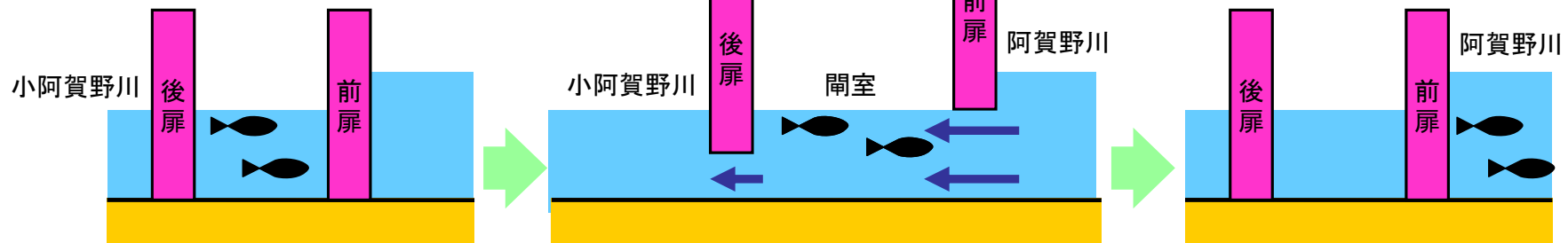
【9～12月】サケ遡上期



- ・魚を遡上させるためには、水の流れを作ってやる必要あり。アユの場合、0.5m/s前後
- ・流れをつくるためには、2つのゲートを同時に開けるフラッシュ操作と、バイパスゲートを使う遡上支援操作の2つあり。→メリット・デメリットがあるため、水位条件によって、組み合わせる。

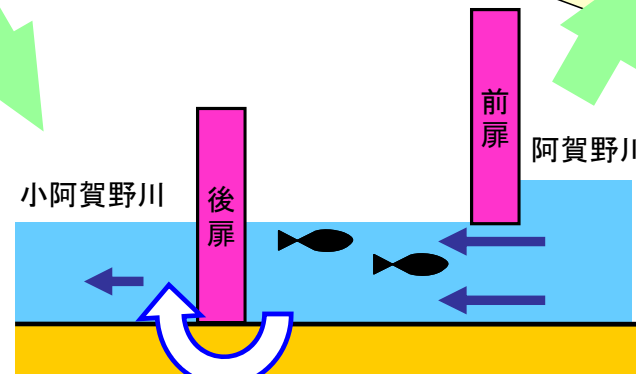
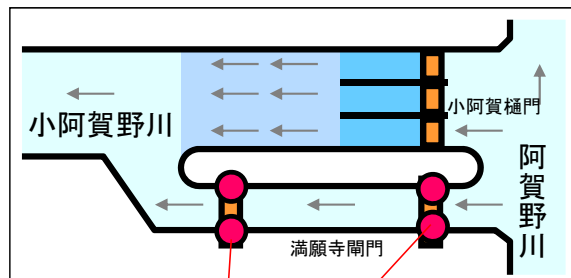
フラッシュ放流操作

※ 現在手動にて、実施している方法



メリット: 泥のフラッシュもできる。
デメリット: 2つのゲートを同時に開ける。

遡上支援操作【今回立案】



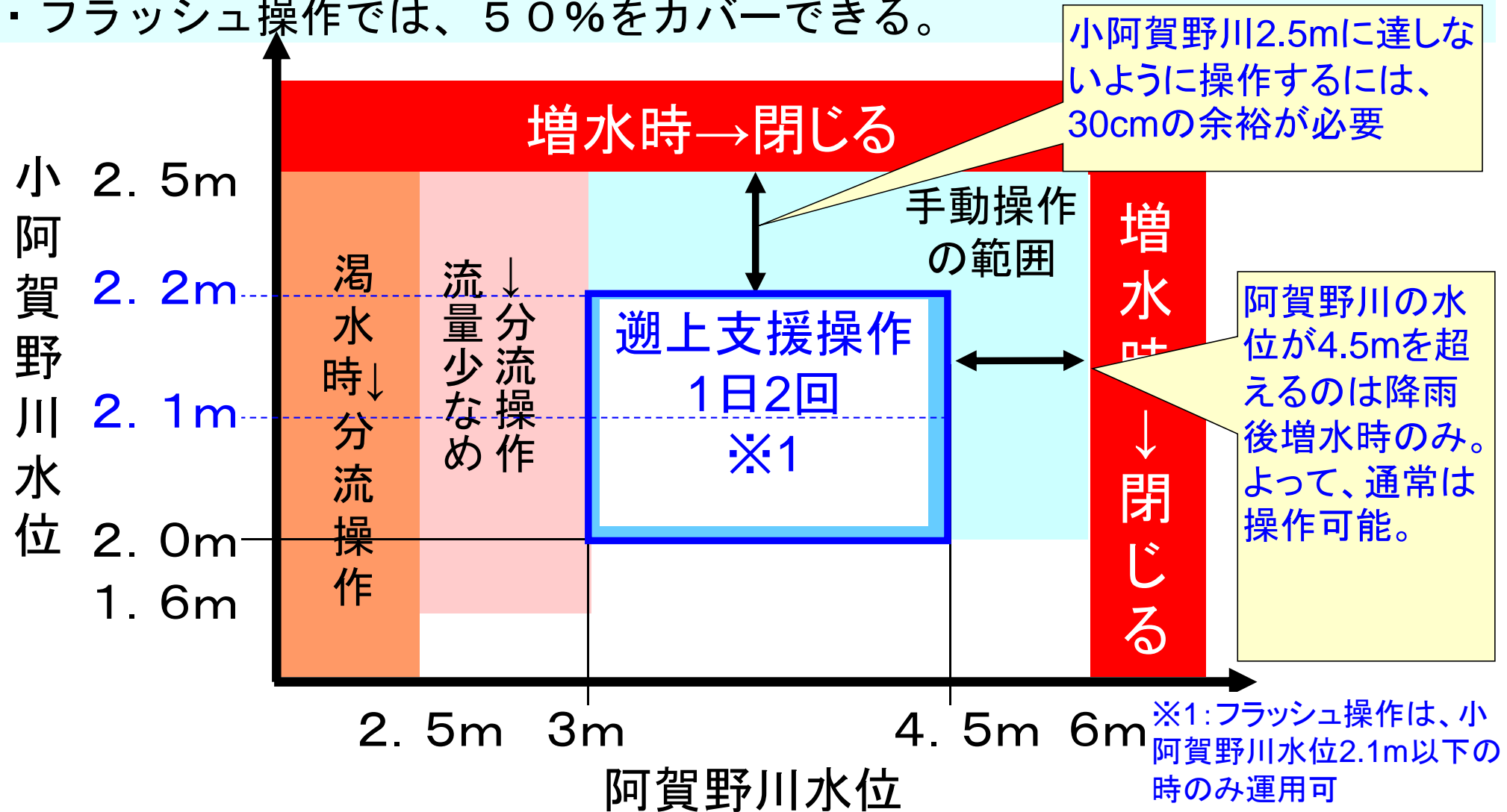
バイパスゲート

メリット: 2つのゲートを同時に開けずすむ。
・バイパスゲートの操作性は、機械的にほぼ同じ。

デメリット: 泥がフラッシュできない。

2.4 満願寺閘門の遡上支援操作(案)

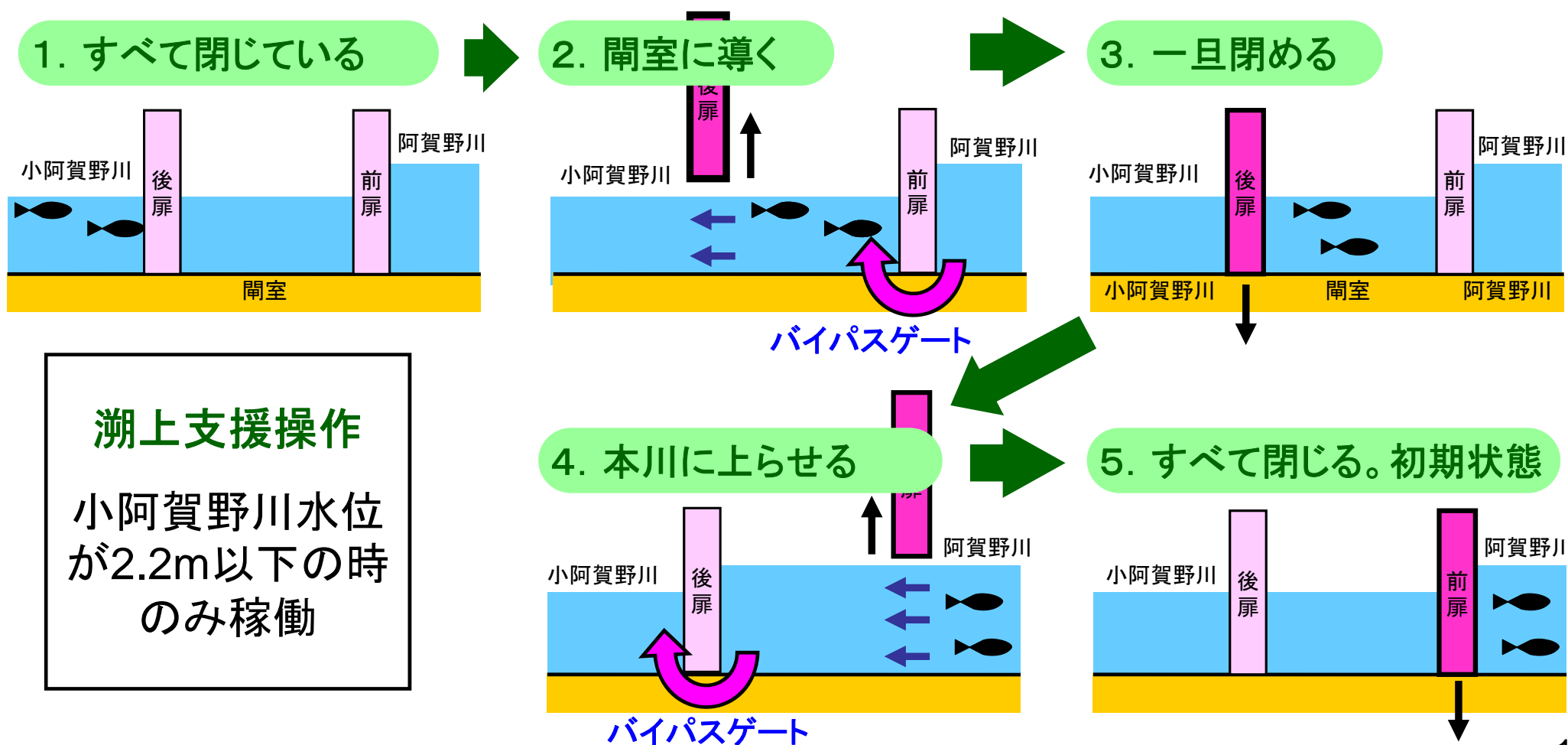
- ・ 操作上の余裕代を確保し、2つの川の水位条件が揃うときに、稼働させる。
- ・ 1日2回稼働できるようにする。
- ・ 遡上支援操作により、**アユ遡上期の80%の日をカバー**。
- ・ フラッシュ操作では、50%をカバーできる。



2.4 満願寺閘門の遡上支援操作(案)

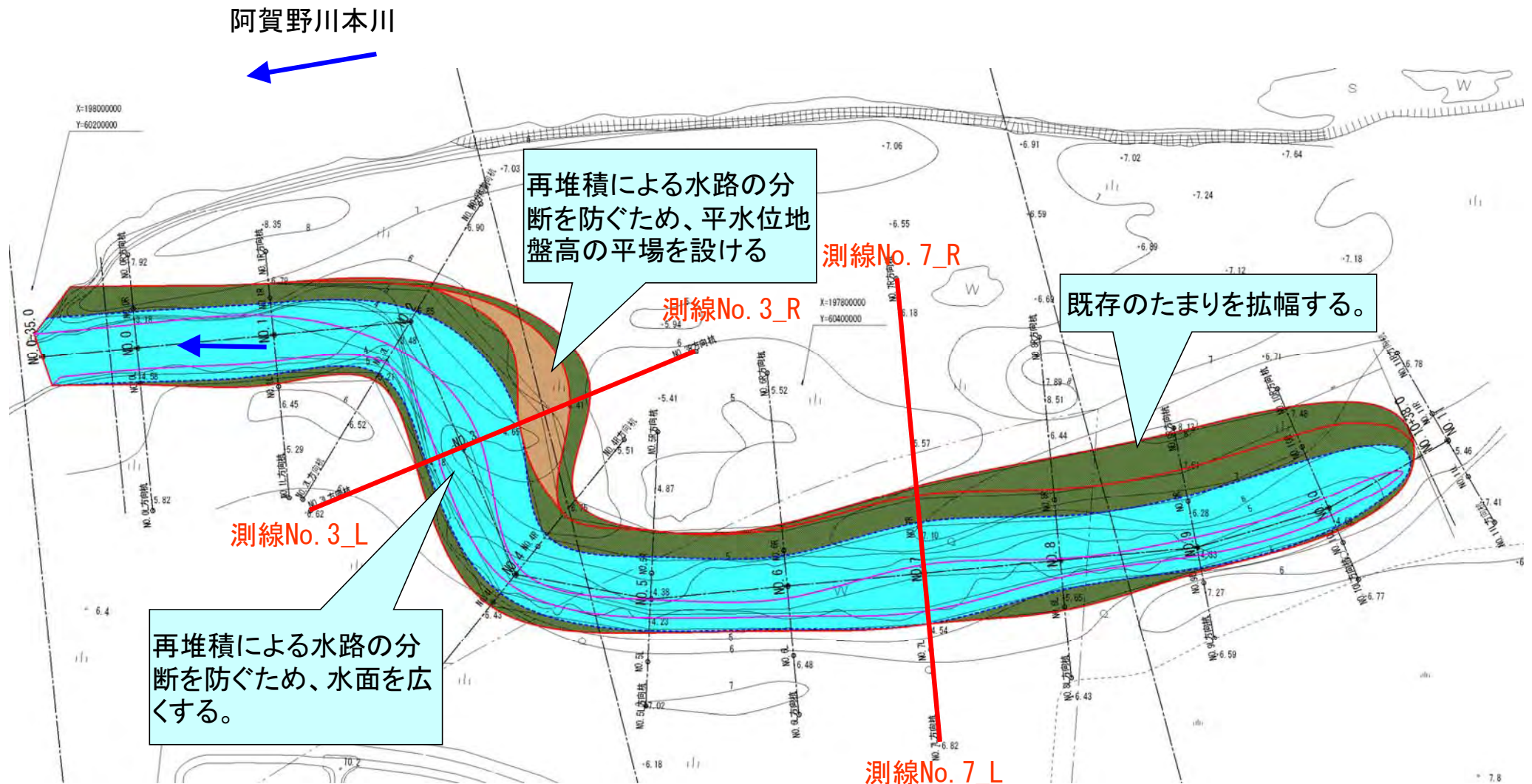
支援操作により実施回数を増やすことができるようになる。 アユ以外の魚類にも配慮し通年稼働を目指す

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通船操作												
フラッシュ操作							サケ遡上期は休止					
遡上支援操作												






(1)高山地区ワンド再生図面(平面図)

- 既存のワンドとたまりを接続し、長さ約600mのワンドを再生する。



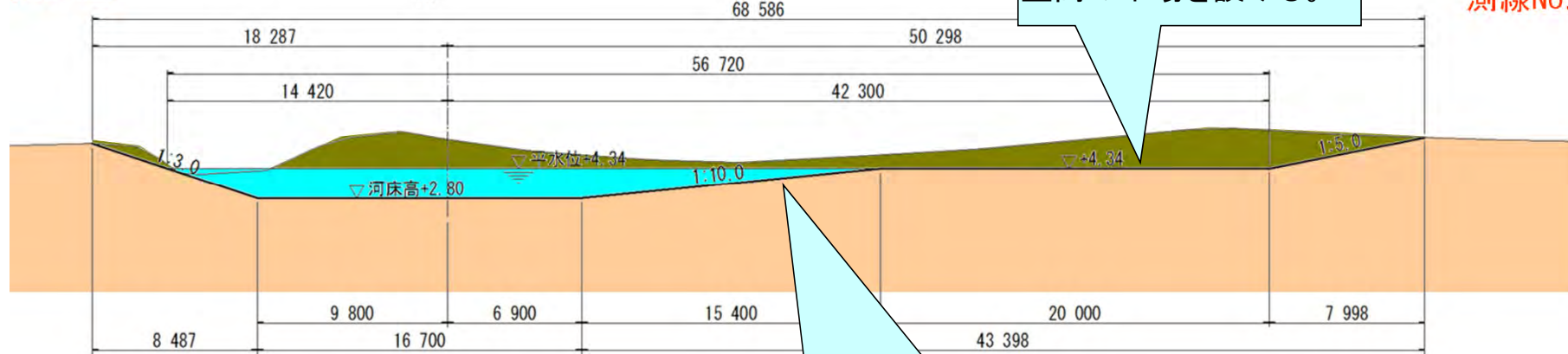
(2) 高山地区ワンド再生図(横断図)

- 河床幅は約7~17m、水面幅は約26~37m確保する。

(凡例)	
	現況地盤
	整備後の水域
	整備後の地盤

測線No. 3_L

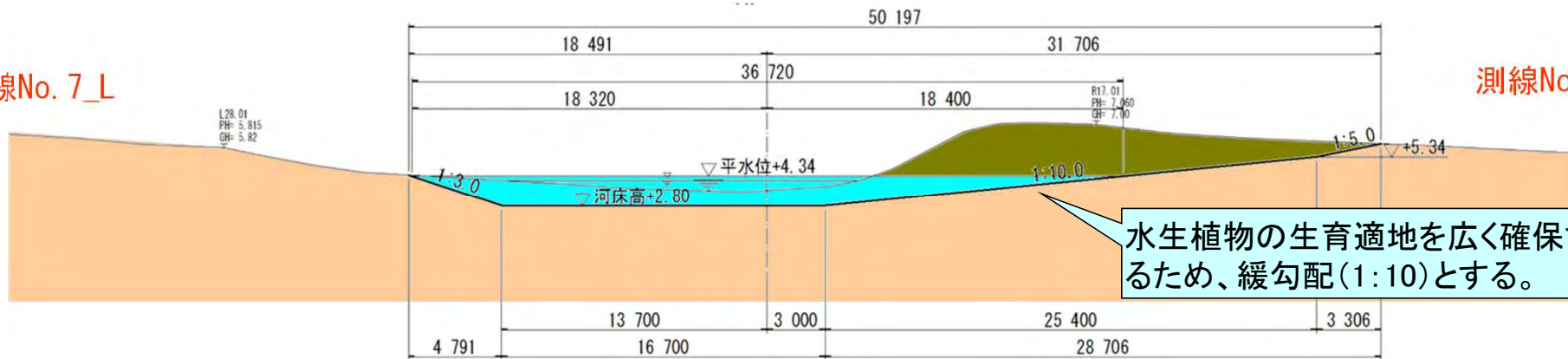
測線No. 3_R



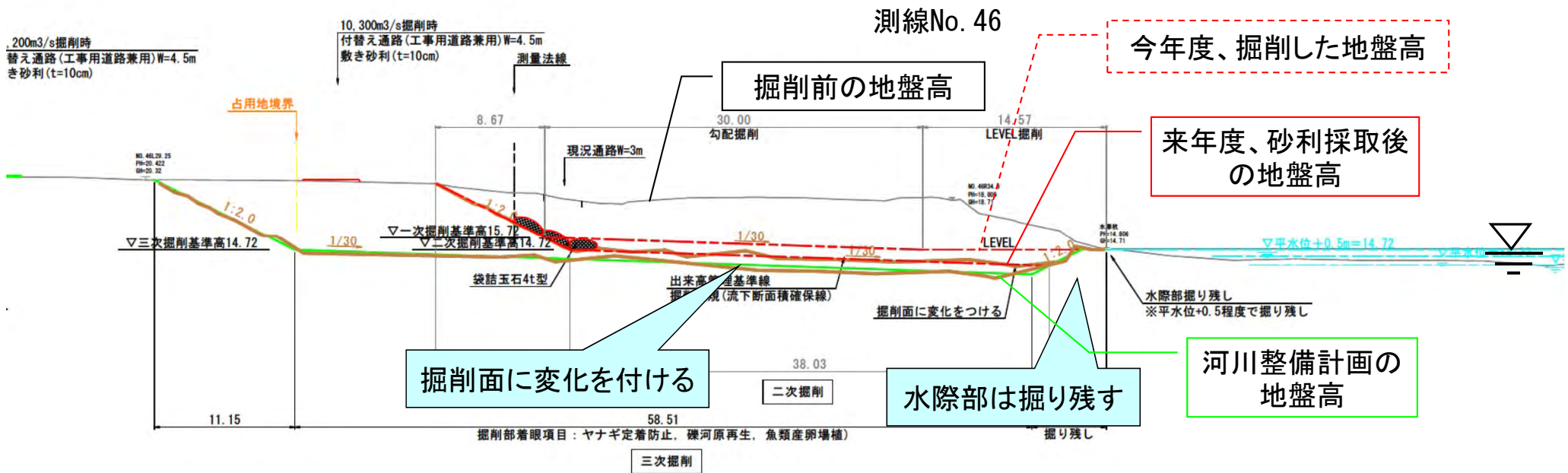
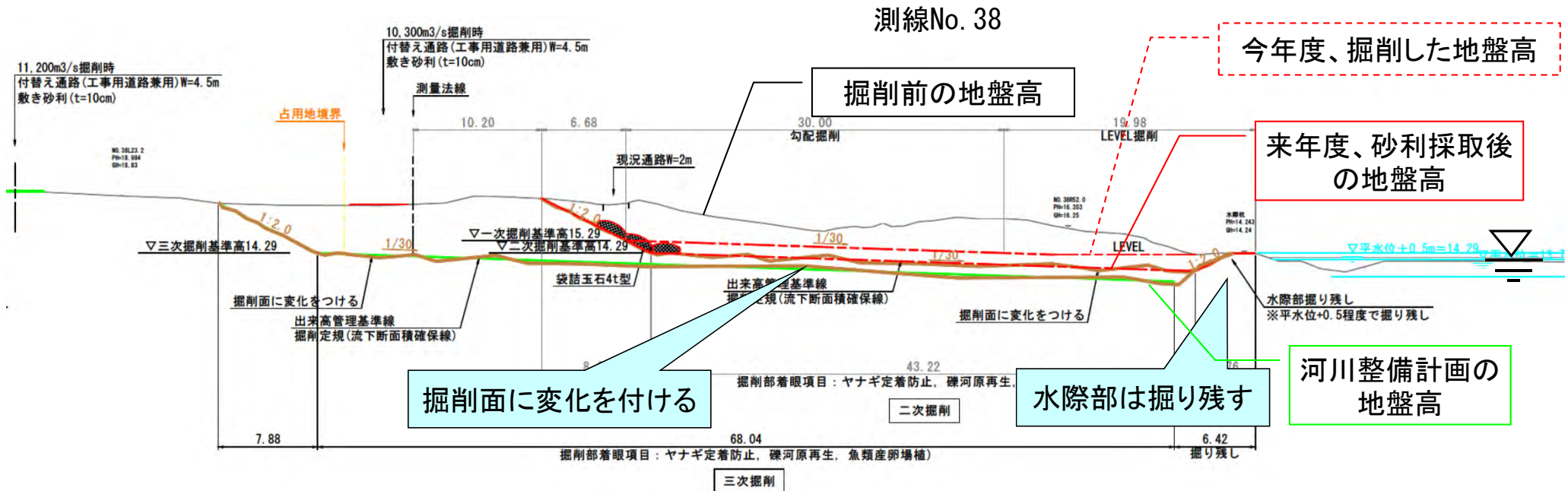
水生植物の生育適地を広く確保するため、緩勾配(1:10)とする。

測線No. 7_L

測線No. 7_R



(1) 笹掘地区砂礫河原再生図(横断図)



(2) 笹掘地区砂礫河原再生 掘削工事前後の現地状況

